

帯広市図書館 開館100周年 記念誌

～おめでとう100年 ありがとう100年～



100th OBIHIRO CITY LIBRARY

目次

CONTENTS

◆建物で迎える図書館の変遷

| | |
|-------------------------|-------------------|
| 「帯広市図書館 開館 100 周年にあたって」 | 帯広市長 米沢 則寿 |
| 「これからも皆様に愛される図書館を目指して」 | 帯広市教育委員会教育長 池原 佳一 |
| 「情報収集の拠点としての図書館」 | 帯広市図書館長 前原 匡宏 |

第1章 100年の歴史

| | |
|--------------|----|
| 帯広市図書館の歩み | 09 |
| 移動図書館の歩み | 15 |
| 歴代館長 | 17 |
| 帯広図書館友の会の歩み | 19 |
| ボランティア団体一覧 | 23 |
| 団体・協議会・研究会一覧 | 24 |
| 文庫名一覧 | 25 |

◆写真で見る図書館の歴史

第2章 現在の取り組み

| | |
|-----------|----|
| 実施事業一覧 | 29 |
| 帯広叢書 | 30 |
| 市民文藝 | 31 |
| 中城ふみ子賞 | 36 |
| 一般向け事業 | 37 |
| 児童向け事業 | 38 |
| 図書館の主な発行物 | 43 |

◆新聞で見る図書館の歴史

第3章 コレクション

| | |
|-----------|----|
| 貴重資料公開 | 52 |
| 文庫印で迎える歩み | 56 |

資料編

| | |
|-------|----|
| 施設案内 | 58 |
| 館内案内図 | 59 |
| 利用案内 | 60 |

建物で迎える図書館の変遷

Transition of the library

大典記念帯広図書館時代
(帯広市立帯広小学校提供)



西5条南9丁目時代



西7条南7丁目時代



現在 (西2条南14丁目)



帯広市図書館 開館100周年にあたって



帯広市長 米沢 則寿

この度、帯広市図書館は、前身である「町立大典記念帯広図書館」が大正9年に発足開館し公立図書館となってから100周年という大きな節目を迎えました。これもひとえに先人の図書館建設への御尽力と、利用者の皆様をはじめ関係各位の温かいご支援とご協力の賜物であり、心から感謝を申し上げます。

大正9年には、第1回国勢調査が行われ、帯広町の人口は1万6千人余りであり、その後市制施行、川西村及び大正村の合併などを経て本市は大きく発展するとともに、図書館や我々の生活をとりまく状況は大きく変化しました。

図書館には資料や情報を提供して住民の読書を推進する役割があります。

読書は、知識や論理的思考、想像力を育み、心を豊かにしてくれます。特に乳幼児への絵本の読み聞かせや多感な時期における読書は、子どもにとって代えがたい財産であり、大人になってからも活字に触れることは、公私にわたる生活の充実につながります。

帯広市図書館はこれからも、豊富な資料と様々なサービスを通じて住民の皆様の読書環境の整備や課題解決、調査研究への対応に努め、また「十勝・帯広の知の拠点」として、これからも多くの皆様のご来館をお待ち申し上げ、ご挨拶いたします。

これからも皆様に愛される 図書館を目指して

帯広市教育委員会
教育長 池原 佳一



令和2年12月2日に、帯広市図書館は開館して100周年を迎えました。ご利用いただいております皆様、様々な形で支えてくださっているボランティアの皆様、図書館運営にご支援ご協力いただいております関係各位に、心から感謝と敬意を表します。

さて、皆様は移転前の図書館はどこにあったかご存じでしょうか。さらにその前はいかがでしょう。帯広市図書館はその長い歴史の中で何度か移転を経ており、現在の建物は、14年前に現在の駅前の土地に移転したものです。各階をそれぞれ「にぎわいのフロアー」「探求のフロアー」「憩いのフロアー」とすることで幅広いニーズに対応しております。また「健康」や「ビジネス」、「生活」など利用の多いテーマについて特設コーナーを設置しているなど、先進的な取組を他の図書館に先駆けて行ってまいりました。

人生100年時代を迎え、だれもがあらゆる機会に学び続け、その可能性を最大限に引き出すとともに、学んだ成果を生かして豊かな人生を送ることができる環境づくりが求められています。今後も生涯学習施設として、十勝・帯広の皆様に愛され、より多くの方が気軽に足を運んでいただけるような図書館づくりのため、各方面からのご指導ご支援をお願い申し上げ、ご挨拶といたします。

情報収集の拠点としての 図書館

帯広市図書館長 前原 匡宏



帯広市図書館が、一世紀という長きにわたり歴史を積み重ねてこれましたことは、利用者の皆様並びにご支援をいただきました皆様の賜物であり、この場をお借りしてお礼申し上げます。

近年、生涯学習という言葉も普及し、単なる書庫としてではなく、情報収集の拠点としての役割も図書館は担うようになっております。そのため、55万冊以上にまで収集した資料を単に貸し出すだけでなく、利用者が適切な資料にたどり着けるようお手伝いする「レファレンス」などの情報サービスや様々な課題や利用に対応したサービス、学習機会を提供しております。

また子ども向け事業にも力を入れており、「ぶっくーる便」や「セット本の貸出」、「ブックリストの作成」、「おはなし会」などを通じ、子育て中のご家庭や小中学校などの教育現場を支援し、子どもの読書活動を推進しております。

図書館は、乳幼児から高齢者まで多様な方が様々な目的で利用されており、利用者の数だけ、利用方法や過ごし方があると思います。

今後も、より多くの皆様に図書館をご利用、ご活用いただけるよう、身近な学習拠点、情報拠点として役割を果たしてまいります。

帯広市図書館の歩み

大正 1912～1925

キーワード／発足

帯広市図書館は、大正元（1912）年、十勝教育会が皇太子殿下行幸記念として事務所を新築した際、その建設費の残金 200 円で図書を購入したことに始まる。翌年 6 月には「私立十勝教育会図書館」を発足。購入した図書は巡回文庫として、一戸一週間の期限付きで帯広町を除く 12 の村に巡回し、戻ってきた本は事務所内で一般公開した。その後も予算を設けて蔵書を増やしていったが、所在地の片寄り等もあり利用者は少なかった。この問題を鑑み、帯広土曜会（清田惇作氏・近田留四郎氏等）が町内有志より資金を集め、帯広町字西 3 条 6 丁目 2 番地に建物を新築。しかし帯広土曜会独力では不足があることや将来の維持がおぼつかないとして、十勝教育会に交渉を持ちかける。これにより、事務所を移転して土曜会の建物を増設し、十勝教育会が維持する大典記念帯広図書館が発足した。大正 5（1916）年 6 月のことであった。

大正 9（1920）年、十勝教育会・帯広土曜会は管理上の問題から、建物 58.5 坪、図書 1,071 冊等一切の寄付を町に申し入れる。名前を変更せずに町立として経営するよう交渉し、11 月 25 日、町議会で 12 条からなる館則、処務細則及び、閲覧規則を制定し、北海道庁長官の認可を得る。そして同年 12 月 2 日、町規則第 4 号により「町立大典記念帯広図書館」が発足開館した。



大正時代の「圖書台帳」

昭和 1926～1954

キーワード／移転・拡大

昭和 5（1930）年 3 月 2 日、建物の老朽化により、帯広町字帯広 11 番地（現在の西 5 条南 9 丁目 2 番地）の十勝会館内に移転、只石繁松氏が専任嘱託員として運営にあたり、その傍ら一般町民及び新聞社などに図書資料の寄贈を呼びかけ蔵書の拡充を図った。

その後、昭和 8（1933）年 4 月 1 日帯広町に市制が施行され、翌年 8 月 6 日に町立大典記念帯広図書館の館則改正案を図書館から市長に提出。昭和 10（1935）年 4 月 1 日、市議会の議決により「大典記念図書館」となる。

【図書館運営の状況（昭和 10 年）】

蔵書冊数：4,055 冊 開館日数：273 日 1 日平均利用人員：48.4 人

昭和19(1944)年2月2日、十勝会館が軍隊の司令部として使用されることになり、帯広治水現業事務所跡(現在の西4条南6丁目1番地)に移転。しかし、翌年6月には戦局悪化により11月8日まで閉館となる。

その後も移転を繰り返し、昭和22(1947)年10月28日に西5条南9丁目1番地の十勝公会堂へ移転、翌年6月1日には再び十勝会館内に移転した。昭和25(1950)年5月、入札により172万円で大一土建株式会社が図書館新築工事を落札、8月1日に帯広図書館が西5条南9丁目に完成した。



昭和20年代の「図書館日誌」

【施設について】

総面積：約547㎡ 総工費：210万円

昭和 1955～1988

キーワード／拡充・充実

昭和30(1955)年10月に教育委員会の事業のひとつとして、郷土資料のシリーズ発行が計画され「帯広市社会教育叢書」が創刊される。このシリーズは昭和47(1972)年、事務担当が帯広市図書館に移管されたことにより「帯広叢書」と名称を改め現在に至る。

昭和33(1958)年10月13日には北海道図書館協会研究大会を帯広で開催。図書館閲覧室に道内21市町村の図書館職員等約30名が集まり、「整理事務の合理的能率化」について議論が交わされた。その3年後の昭和36(1961)年11月3日には帯広市民文芸誌を創刊。毎年1号ずつ発行し、令和2(2020)年11月に第60号を発行した。

当時は公民館図書館として業務を行っていた図書館だったが、図書館法の規定に基づき公民館より分離独立、昭和38(1963)年3月30日に「帯広市図書館」の名称となった。その2年後の昭和40(1965)年には読書週間をきっかけに、十勝文化の拠点としての役割を果たす「郷土の文献・資料を大切にす運動」を展開。同年10月27日には「資料センター」を館内に設置した。昭和42(1967)年5月1日、レファレンス業務を開始。5年後の昭和47年度には218件、さらに20年後の平成4年度には2,133件、平成30年度には9,123件にまで利用が増えている。

昭和42(1967)年9月1日、老朽化が甚だしくなっていたことから図書館建設を着工。翌年の昭和43(1968)年7月に図書館(西7条南7丁目)が落成、8月20日に来賓約100人が参加し開館式が行われ、その翌日21日に図書館が開館した。

【施設について】

鉄筋3階建て 総面積：1,760㎡ 総工費：82,359千円

開館から2年後の昭和45(1970)年4月に郷土資料室を開設。昭和47(1972)年5月には複写サービスを開始。設置された複写機はBS370W型の電子リコピーで、1台38万円。複写料金は無料だったが用紙は利用者が用意、複写できる資料は“禁帯出”のものに限られていた。

昭和56(1981)年4月には障害を持ち来館が困難な方に対して郵送による図書の貸出を開始、昭和58(1983)年3月にリクエスト(予約申込)制度を実施、翌月の4月には返本ポストを設置するなど、昭和50年代に入りニーズに合わせて図書館の利用・活用方法も変化していった。

平成 1989～2005

キーワード／新時代・発展・知の拠点

建設時は全道屈指の設備を誇った建物も、次第に老朽化が目立つようになりはじめた。平成元(1989)年6月に2階一般閲覧室を開架書庫へと改装したことに始まり、その後次々と収蔵スペースの狭隘化対策も講じられた。平成4(1992)年6月に3階の郷土資料室・中城ふみ子資料室・特許資料室の仕切壁を撤去しワンフロアーに、その2年後の平成6(1994)年6月には車庫を改造して館外奉仕室とし、元の館外奉仕室を閉架書庫とした。さらに同年10月には1階応接室を書庫として改造。平成9(1997)年6月には主に新聞・官報保存・閲覧のため分室(西6条南6丁目 ソネビル5階)を設置した。

平成7(1995)年5月29日に「新しい図書館を考える市民委員会」が発足。広い開架式の書架スペースや蔵書のコンピュータ管理等を導入した新図書館建設への機運の高まりのなか、数々の議論を経ること8年、平成15(2003)年12月、現在地に新館着工の日を迎えた。

新館建設中の平成16(2004)年4月には十勝管内公共図書館協議会が十勝在住者であれば管内のどの公共図書館に出向いても個人の貸出カードが作れ、直接本を借りることができる「十勝管内図書館広域個人貸出事業」を開始。また、同年8月に「第1回中城ふみ子賞」表彰式を行い、記念講演会や祝賀会を開催。以後、隔年で実施している。(令和2(2020)年の中城ふみ子賞表彰式等は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により延期とした。)

その翌年の平成17(2005)年3月に帯広市の子どもの自主的な読書活動の推進に取り組むための方向を示す「帯広市子どもの読書活動推進計画」が策定された。その後、平成17(2005)年・平成22(2010)年・平成27(2015)年・令和2(2020)年と5年ごとに策定され、子どもの読書活動の推進に取り組んでいる。

また、同年平成17(2005)年6月1日から7月30日には新図書館への移転準備のため移動図書館を運休し、11月10日には旧帯広市図書館を、12月29日には分室を閉館(室)した。また、8月には新図書館のシンボルマークを募集。応募総数142点の中から、市内在住の高校1年生(当時)有安友美さんの応募作品をシンボルマークに決定した。



平成～令和 2006～2020

キーワード／未来へ

平成 18 (2006) 年 3 月 3 日に新帯広市図書館がオープン。本棚に並ぶ図書（開架）は旧図書館の倍の 20 万冊、蔵書数は旧図書館から約 4 万冊増えた約 35 万冊、面積も約 4 倍となった。

【施設について】

地下 1 階・地上 3 階建て 延べ床面積：6,545㎡ 総事業費：約 35 億円

新図書館開館記念事業として、作家の鳴海章氏や宇江佐真理氏、翻訳家の高橋啓氏の講演会や手づくり絵本教室等を開催した。新館になりビジネス支援コーナー、食文化コーナー、健康・医療情報コーナー「か・ら・だ♪ナビ」、フードバレーとかちコーナー、闘病記コーナー等、特色のあるコーナーを随時開設。また、広報紙や図書リストの作成にも力を入れ、図書館広報紙「よむよむ☆タイムズ」や食文化に関する本を紹介する「食ナビ☆ジュニア」「食ナビ☆ベビー」、10代（ヤングアダルト）を対象におすすめ本を紹介する広報紙「TEEN'S」など、様々な内容の発行物を作成している。



「か・ら・だ♪ナビ」コーナー

平成 18 (2006) 年 8 月 4 日には、帯広畜産大学との連携による小学生対象情報検索ガイダンス（調べ学習）を開始。その後も 4 館連携事業（現社会教育施設連携事業）の実施など、他団体との連携事業にも取り組んでいる。また、学校図書館との連携事業も行っており、平成 19 (2007) 年 1 月には学校の朝読や調べ学習協力のためのセット本の貸出事業「ぶっくーる便」を開始。翌年の平成 20 (2008) 年には学校図書館支援事業を実施し、北海道立図書館協力のもと学校図書館改善についての講義・実技を行う「学校図書館クリニック」を開始した。

平成 19 (2007) 年 2 月 3 日には、平成 18 (2006) 年 3 月 3 日の新図書館開館からの来館者数が 50 万人に到達。その後、平成 20 (2008) 年 3 月 1 日に 100 万人、令和元 (2019) 年 12 月 1 日には 600 万人に到達した。

平成 20 年度には「辿る蘇る昭和の帯広」と文部科学省委託事業の「子ども読書応援プロジェクト」を実施。翌年の平成 21 年度にも同じく文部科学省委託事業の「胎児からのぶっくスタートプロジェクト」と「子ども読書地域スクラム事業」で胎児から小学生までを対象にした事業を行い、読書活動の普及・推進を図った。その他開館周年記念事業も行っており、平成 21 (2009) 年の開館 3 周年記念にはしおりやマガジンをプレゼント、翌年の開館 4 周年記念には帯広子ども研究所所長の横浜ミエ氏を講師に迎え講演会を開催。その後も翻訳家の金原瑞人氏の講演会など、様々な記念事業を実施している。

平成 22 年度からは子どもたちの創作意欲をさらに高め、読解力・表現力の向上を目的とした「ジュニア文芸」を発刊。その後、十勝・帯広の青少年の文芸活動を奨励するため「とかちジュニア文芸」と名称を変更して現在に至る。翌年の平成 24 (2012) 年 4 月 23 日には、子どもが積

極的に読書活動を行う意欲を高める活動について優れた実践を行っている「子どもの読書活動優秀実践図書館」として文部科学大臣表彰を受賞した。

平成 26 (2014) 年 3 月 2 日には、児童書コーナーと一般書コーナーの防音のために設置された「こどもの本の森ロールスクリーン」のお披露目が行われた。このロールスクリーンは「国際ソロプチミスト帯広みどり」から贈られたもので、館内を楽しく彩ろうと「こどもの本の森」をテーマに子どもたちから絵を募集。幼児や小学生から応募された 53 点の絵画の中から 4 点が採用されプリントされた。翌年にも募集を行い、現在 8 枚のロールスクリーンがこどもの本の森を彩っている。

新館が開館してから 10 年後の平成 28 年度の利用統計によると、蔵書数（移動図書含む）は 533,029 冊にまで増えている。



こどもの本の森コーナー ロールスクリーン

平成 30 (2018) 年 9 月 6 日に発生した北海道胆振東部地震の影響（停電）により、図書館業務を遂行出来なくなったことから翌 7 日までを臨時休館とした。その 2 年後の令和 2 (2020) 年 3 月には、新型コロナウイルスの影響で図書館に来ることの出来ない子ども達にも楽しんでもらおうと、「WEBでおはなし会」を YouTube にアップ。その後、新型コロナウイルス感染拡大に対する政府の緊急事態宣言を受け、4 月 17 日から 5 月 26 日までを臨時休館とした。5 月 27 日からは感染拡大予防策を講じながら開館。6 月 9 日までは貸出・返却サービスのみ、翌 10 日からは視聴覚資料の館内視聴以外のサービスを再開、19 日からは通常開館となった。

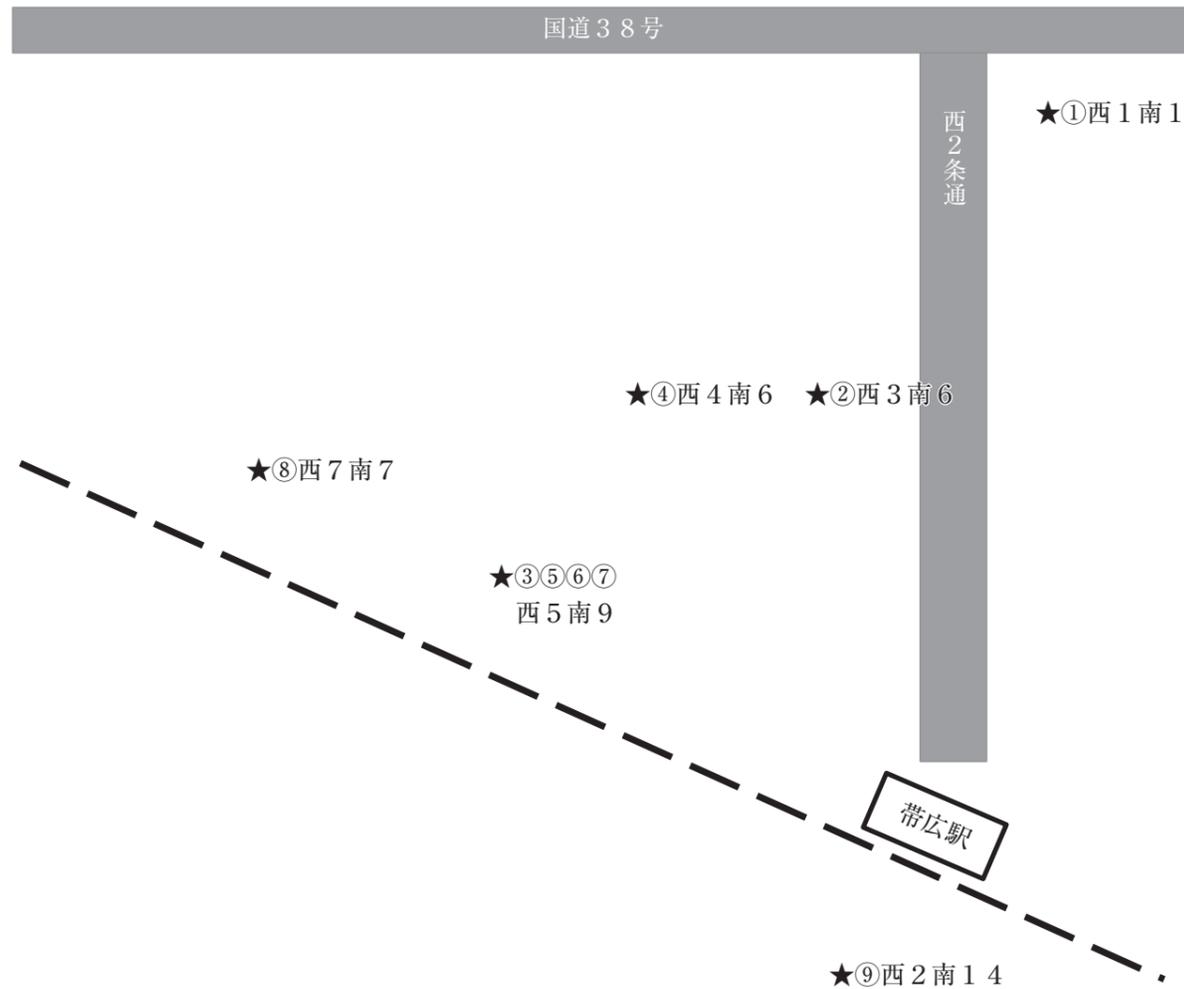
10 月 4 日には感染予防を徹底したうえで、フリーアナウンサー村井裕子氏とカンテレ奏者のあらひろこ氏を講師に迎え「朗読とカンテレで親しむ宮沢賢治の世界 2020」を開催した。

そして、令和 2 (2020) 年 12 月 2 日に「町立大典記念帯広図書館」として発足してから 100 年を迎える。



「子どもの読書活動優秀実践図書館」表彰状

場所の変遷



| | | |
|---|--------------------------|--------------------|
| ① | 大正 5 (1916) 年 6 月 1 日 | 「私立十勝教育会図書館」が発足 |
| ② | 大正 9 (1920) 年 12 月 2 日 | 「町立大典記念帯広図書館」として発足 |
| ③ | 昭和 5 (1930) 年 3 月 2 日 | 十勝会館内に移転 |
| ④ | 昭和 19 (1944) 年 2 月 2 日 | 帯広治水現業事務所跡に移転 |
| ⑤ | 昭和 22 (1947) 年 10 月 28 日 | 十勝公会堂に移転 |
| ⑥ | 昭和 23 (1948) 年 6 月 1 日 | 十勝会館内に戻る |
| ⑦ | 昭和 25 (1950) 年 8 月 1 日 | 「帯広図書館」完成 |
| ⑧ | 昭和 43 (1968) 年 8 月 21 日 | 移転開館 |
| ⑨ | 平成 18 (2006) 年 3 月 3 日 | 移転開館 |

移動図書館の歩み

昭和 1954 ~ 1964

昭和 29 (1954) 年 7 月に移動図書館ステーション 16 カ所を設置し、隔月 1 回ライトバンやジープでの配本を開始。貸出期間は現在と同じく 1 カ月。当初は家事に追われている主婦を対象に貸出を行い、マスター（世話人）を委嘱して地域での自主的な運営により読書活動を推進していた。最も読まれていたのは文学で閲覧冊数の 4 割、次いで児童書が閲覧冊数の 2 割を占めていた。利用層で最も多かったのは主婦で、当初の目的であった家庭への進出が果されていた結果となった。

昭和 31 年度の利用統計によると、学生層の利用が 70% 台を占めているが、主婦層の利用も多い。特に帯広近郊の農村部の主婦の利用が圧倒的に多く、全体の 60% 台を示していたため、昭和 32 (1957) 年 5 月からさらに 5 カ所の移動図書施設を増やした。その後、昭和 39 (1964) 年 7 月には、「1 人でも多くの人に 1 冊でも多くの図書を」を基本方針に掲げ、「自動車文庫」がスタート。自動車で地域を巡回し、41 カ所に駐車して利用者に直接貸出をしていた。同月には小学生の夏休み期間中、子供会を対象に配本し読書活動を高めるため「子供会ブックスタンド」を開始した。



昭和 30 年代の移動図書館車

昭和 1965 ~ 1988



昭和 40 年代の「ナウマン号」

昭和 40 (1965) 年に入ると、市役所で行っている移動窓口のマイクロバスに約 100 冊の図書を載せ、遠方に住む人たちに貸出を行うようになった。翌年の昭和 41 (1966) 年 4 月には、図書積載数 800 ~ 900 冊の移動図書館専用車（三菱ローザ）が配車された。また、昭和 42 (1967) 年に青年向きの本を勤労青少年ホームに設置したことに始まり、昭和 45 (1970) 年 1 月に婦人向きの図書を婦人センターに、昭和 46 (1971) 年 4 月に生活館、同年 5 月に児童会館に「配本所」を増設し、年 2 回・

1 カ所につき約 150 冊 ~ 250 冊を配本した。昭和 44 (1969) 年 6 月からは、帯広市の目標であった青少年の健全育成の一環として、「青少年文庫」を設置。青少年委員宅 24 カ所に月 1 回・1 カ所につき 85 冊を配本した。昭和 45 (1970) 年 10 月には図書積載数 1,000 ~ 1,300 冊の移動図書館車を更新（トヨタ RV18）、それに伴い市内の小中学生から移動図書館車の愛称を募集。図書館協議会の審査の結果、小学 2 年生（当時）佐藤愛美さんの「ナウマン」に決定した。

翌年の昭和46(1971)年には小中学校の夏休み期間中に「夏期親子移動図書館」を行った。これは昭和39(1964)年7月より実施していた「子供会ブックスタンド」の名称を変更し、読書人口の増加を目的に、市内11カ所を2週間ごとに巡回して1人2冊まで貸出をしたものであった。

また、昭和47(1972)年6月には、自動車文庫・移動ステーション・配本所等を統一し「市民文庫」とした。同月には地域の読書活動の推進を図ること等を目的に「市民文庫マスター連絡協議会」が発足。この「マスター連協」は、地域の読書活動の推進を図りマスターの相互連絡を密にすることや研修の実施等を目的として設立されたものである。

その後、昭和48(1973)年には移動市民文庫の巡回場所は56カ所、昭和51(1976)年には60カ所にまで増えた。昭和54(1979)年9月には、移動図書館車(ナウマン)を新車(三菱MK115F)に更新し、図書積載数が2,300冊となった。翌年の昭和55年度の利用統計によると、図書館の本を利用する2人に1人はナウマン号を利用しており、図書館全体の利用率の60%を占めていた。また、ナウマン号の利用の70%は児童書の貸出で、子どもの利用率が目立っていた。



昭和54年に更新した「ナウマン号」

平成～令和 1989～2020

平成2(1990)年12月に、移動図書館車(ナウマン)をエアコンが装備されている新車(日野U-PJ3HJAA)に更新。図書積載数は2,700冊となった。翌年の平成3(1991)年6月には、「市民文庫マスター連絡協議会」の事業の功績が認められ、北日本図書館連盟から表彰を受けた。平成16(2004)年4月からは大正・川西地区の小中学校へ巡回、平成22(2010)年7月には高齢者マンションへの巡回・貸出を開始した。平成24(2012)年10月には移動図書館車(ナウマン)を現在使用している新車に更新、図書積載数が3,500冊にまで増えた。

翌年、平成25(2013)年7月には企業への巡回を開始。仕事で図書館に足を運ぶことができない人達への本の提供が目的で、市内西25条北1丁目の「パナソニックST(株)」の巡回をスタートさせた。

また、「ホコテン(帯広まちなか歩行者天国)」に平成29(2017)年8月から毎年参加をしたり、「こどもの読書週間」事業の一環で児童会館へ行くなど、巡回だけではなくいろいろな場所へ出向き、読書活動の普及・推進を図っている。



平成2年に更新した「ナウマン号」



現在(令和2年)の「ナウマン号」

歴代館長一覧

| 任期 | 氏名(敬称略) |
|------------------|---------|
| 昭和43年8月～昭和45年3月 | 松井 徳仙 |
| 昭和45年4月～昭和50年12月 | 小野寺俊一 |
| 昭和50年12月～昭和51年3月 | 佐藤 孝 |
| 昭和51年4月～昭和52年3月 | 新田 正雄 |
| 昭和52年4月～昭和54年10月 | 葛西 新一 |
| 昭和54年10月～昭和55年3月 | 佐藤 孝 |
| 昭和55年4月～昭和59年3月 | 田代 広和 |
| 昭和59年4月～昭和62年3月 | 船戸 祐佑 |
| 昭和62年4月～平成2年3月 | 下国 忠昭 |
| 平成2年4月～平成5年3月 | 富田 常夫 |
| 平成5年4月～平成5年7月 | 三上 紀明 |
| 平成5年7月～平成8年3月 | 鈴木 捷三 |
| 平成8年4月～平成10年7月 | 石谷 善吾 |
| 平成10年7月～平成11年1月 | 武士沢康夫 |
| 平成11年1月～平成11年3月 | 石谷 善吾 |
| 平成11年4月～平成13年3月 | 中川 正嘉 |
| 平成13年4月～平成18年3月 | 倉口 俊男 |
| 平成18年4月～平成25年3月 | 吉田 真弓 |
| 平成25年4月～平成28年3月 | 本江 宏子 |
| 平成28年4月～現在 | 前原 匡宏 |

歴代館長のことば

「一緒に」

吉田 真弓（在職期間：平成18年4月～平成25年3月）

図書館を構成する三大要素は「人・建物・資料（情報）」と学びました。「人」には図書館職員も利用者も含まれます。帯広市図書館の百年は、その存在を大切に思う住民がいて、資料や情報を求める人たちに真摯に応えようとする職員がいて続いてきた年月だと思っております。視察に訪れた方達に、長年続く寄付金や寄贈の多さに驚かれたことがあります。それは、古い、古い図書館の時代から大切に、育み続けた「人」達の図書館への思いが顕在化した結果でしょう。百人に百通りの図書館像があります。ですが、それがどれほど異なっても、人がいて資料（情報）を提供する場であることに変わりはありません。今後も住民に寄り添い「一緒に」育ってゆく図書館であり続けて欲しい、と願っています。

「一世紀、そしてこれから」

本江 宏子（在職期間：平成25年4月～平成28年3月）

開館100周年、心よりお祝い申し上げます。大正から続く図書館に館長として三年間在職し、歴史の一部を担わせていただいたことを誇りに思います。

来館者400万人の達成や現在地開館10周年のお祝、年末年始の貸出冊数・期間の変更等、多くの事が思い出されます。出張や旅行の方からのおほめの言葉も嬉しかったです。何より子ども達が目を輝かせて本を選んでいる姿は忘れられません。そして、友の会の皆様には常に支えていただき、心より感謝申し上げます。

社会情勢の変化やデジタル化のスピードが増す中、情報を得る手段も様変わりしていく事と思います。守るべき事は守り、柔軟さを持ち、市民に頼られ愛される図書館として、ますます発展されることを祈っています。

帯広図書館友の会の歩み

帯広図書館友の会が設立される前年、平成13（2001）年2月28日に帯広市図書館ボランティアの設立を目的としたシンポジウム「一緒に考える図書館づくり」が帯広市役所で開催された。パネリストに北広島市図書館フィールドネットの荒木順子代表（当時）、同図書館職員の新谷良文氏、ねむろ図書館友の会の原田純子代表（当時）、道立帯広美術館しらかばの会の小笠原洋子代表（当時）が招かれ、市民約80人が参加し話を聞いた。その翌年の平成14（2002）年11月30日には、図書館を利用しやすくするための学習会「ハンディキャップサポート」、絵本の読み聞かせをする「おはなし会」、布の絵本などを作る「製作」の3部門で「帯広図書館友の会」が設立され、初代の会長には青柳規子氏が就任した。



イベント後のミーティングの様子

平成15（2003）年2月には、帯広図書館友の会の設立記念講演会が開かれ、日本図書館協会の竹内愼（さとる）理事長（当時）が「友の会がめざすもの～持ち寄り、まとめ、そして分け合う～」と題し講演を行った。また、同年4月に総会が行われ、帯広市図書館の本の修繕などを行う「製本」部門が新たに加わった。帯広図書館友の会の総会は年に1度行われ、事業実施等の活動報告や決算報告等が行われている。

発足2周年を迎えるにあたり、2年間の活動内容を紹介するパネル展を平成16（2004）年10月に帯広市図書館で開催。また、平成17（2005）年には新図書館の開館に向けて書籍の整備作業等の準備にもボランティアとして参加。図書館休館中の10日間で43人が作業に携わった。

平成18（2006）年には、館内の案内役を務めるフロアボランティアに携わる「フロア」部門と、様々な事業の企画運営に携わる「つどい」部門の2部門を新設。同年11月時点で会員は100人を超えた。また、同月には、永年にわたり社会福祉分野に貢献した企業や団体、個人を表彰する

「第65回北海道社会福祉大会」で「道社会福祉協議会会長表彰」を受賞した。

その後、平成23（2011）年10月9日に帯広図書館友の会の設立10周年を記念し、千葉経済大学総合図書館副館長（当時）で帯広市図書館建設プロポーザル委員の齊藤誠一氏を講師に迎えた講演会「これからの図書館～地域の情報拠点となるには何が必要か」が開催された。翌平成24年度の総会では、梶澤弘子副会長が新たな会長に就任。会員数は、令和2（2020）年3月時点で121人まで増えている。



「図書館まつり」展示の様子

「100年の時を越えて繋がる思い」

帯広図書館友の会

会長 梶澤 弘子

帯広市図書館生誕 100 周年おめでとうございます。

帯広市図書館のルーツを紐解いてみますと、十勝に依田勉三と 27 人の開拓者が開墾の鍬を下ろして 30 年後、帯広町民が巡回文庫を始めたこととされております。1907 年（明治 40 年）当時、本の移動にはリヤカーを用いたとも伝えられております。資料を読んだとき、この時代の町民がいかに読書を渴望していたのかが伝わってきます。その思いが閃光となって 100 年以上の時を超え、現代の私の心に届けられて来たのを感じました。まだまだ乏しい生活環境の中、本を集める事は大変な苦勞だったに違いありません。でこぼこ道をリヤカーを引き、本を運んでいる姿を想像すると胸が熱くなります。

帯広図書館友の会は、帯広市図書館で活動するボランティア団体です。図書館が大好きな人たちが集まり、さまざまな形で図書館をサポートしています。その長い活動の中でも、旧図書館から新図書館設立に向けて、数年間の紆余曲折を乗り越え、新図書館完成の日を迎えた時、会員の皆さんや青柳規子初代会長（故）と共に喜んだことが忘れられません。

帯広市図書館は「市民と一緒に作る図書館」を掲げています。帯広図書館友の会は、“本とふれあう喜び、図書館へ行く楽しみをたくさんの人と分かち合いたい！”を合言葉に、100 年以上の時を超えて届けられた先人たちの熱い思いが、同じ図書館を愛する者として、今に繋がっている事を大切にしていきたいと思えます。そしてこれからも、市民とともにある帯広市図書館を誇りに、ボランティア活動を続けてまいります。

帯広図書館友の会の主な事業と活動

帯広図書館友の会は、現在6部門で活動を行っています。
年に1回、図書館まつりや講演会を開催しています。

おはなし部門「おひさま」

【おはなし会の開催】

毎月第 2 水曜日・第 3 土曜日等におはなし会を実施



製作部門

【布の絵本・エプロンシアター等の製作・修理ほか】

毎月水曜日に数回集まり、布の絵本等の製作・修理を行う



製本部門

【図書の修理】

月 2 回、図書館所蔵の破損した本等の修理を行う



【製本講習会】

和綴じ本や絵本、手帳やメモ帳など色々本等を作る講習会を実施



つどい部門

【図書交換会】

家庭で読み終えた本を持ち寄り、持参した本の冊数と同数の本を交換できる(年2回)



【冬休みこども図書館のつどい】

冬休みに児童向けの人形劇などを実施



ハンディキャップサポート部門

【対面朗読】

毎週土曜日、午後2時から午後4時まで実施



【音声ガイド・日本語字幕付映画上映会】

視聴覚障害者を対象とした映画会を実施



フロアサポート部門

【ツアコン養成講座】

見学に来る児童・生徒のために、施設案内を行うボランティアを養成する講習会を実施



【図書館ツアコン】

施設見学にきた小学生に、館内について説明しながら案内をする



【返却図書の排架の手伝い】

図書館に返却された資料を棚に戻す作業の手伝い



ボランティア団体一覧 (令和2年4月時点)

| 名称 | 主な活動内容 |
|-------------------|--|
| 帯広図書館友の会 | おはなし部門「おひさま」 毎月第2水曜日：乳幼児対象おはなし会 毎月第3土曜日：おはなし会 その他 臨時おはなし会 |
| | 製作部門 布の絵本、エプロンシアター、おはなしポケットの製作・修理、作品展示(月2回程度) |
| | 製本部門 製本講習会(年1回)、図書の修理(毎月第3水曜日、第4土曜日) |
| | つどい部門 図書交換会(年2回)、冬休みこども図書館のつどい(年1回) |
| | ハンディキャップサポート部門 対面朗読(週1回)、自主研修会(毎月1回)、障害者向け映画会の実施 |
| | フロアサポート部門 フロア案内、返却図書の排架の手伝い、図書館施設案内の補助(ツアコン) |
| 音訳グループさざなみ | 市民文藝、とちちジュニア文芸の音訳など(随時) |
| 本の宅配ボランティア | 障害者の自宅に本を宅配(随時) |
| 生け花ボランティア | 館内の生け花の管理・入れ替え(週1回) |
| 十勝童話会 | 毎月第1土曜日：おはなし会 |
| ワクワク会 | 毎月第2土曜日：おはなし会 |
| 森の里本を楽しむ会 | 毎月第2土曜日：おはなし会 |
| この本だいすきの会 帯広支部 | 毎月第4土曜日：おはなし会 |
| にこにこ会 | 毎月第4水曜日：乳幼児対象おはなし会 |
| バルーンアート | バルーンアーティスト ミリィー氏の作品を展示 |

団体・協議会・研究会一覧 (令和2年4月時点)

●読書グループ

| 名称 | 代表者(敬称略) | 発足 | 例会・活動 |
|----------------------|----------|----------|---------------|
| わかな会 | 葛西 嘉子 | 昭和43年4月 | 例会：毎月 第2・4木曜日 |
| 十勝童話会 | 天野 和幸 | 昭和48年4月 | 例会：毎月 第1土曜日 |
| 大空文庫の会 | 田島 光子 | 昭和55年5月 | 活動：毎週土曜日 |
| 十勝子どもの本連絡会 | 沼田 陽子 | 昭和57年4月 | 活動：毎月 1回 |
| 檜葉の会 | 内田美佐子 | 昭和58年8月 | 例会：毎月 第2土曜日 |
| 女流文学を読む会 | 笹川 洋子 | 昭和61年2月 | 例会：年数回(第1金曜日) |
| この本だいすきの会 | 谷本 成子 | 平成元年5月 | 例会：毎月 第4土曜日 |
| 帯広・十勝の民話を伝えるコロボックルの会 | 川村 厚子 | 平成5年12月 | 例会：毎月 第2・4金曜日 |
| 森の里本を楽しむ会 | 竹腰嘉代子 | 平成10年 | 活動：毎月 1回 |
| 昔ばなし大学帯広 | 梶澤 弘子 | 平成13年4月 | 活動：毎月 平均2回 |
| 帯広図書館友の会 おひさま | 五十嵐尚子 | 平成14年11月 | 例会：毎月 2回 |
| とちかち藤沢周平文学愛好会 | 上野 敏郎 | 平成22年8月 | 例会：毎月 1回 |
| にこにこ会 | 加藤 美果 | 平成26年4月 | 例会：毎月 1回 |
| ワクワク会 | 深田 敦子 | 平成30年4月 | 例会：毎月 1回 |

●協議会

| 名称 | 十勝管内公共図書館協議会 |
|-------|--|
| 会長 | 前原 匡宏(帯広市図書館長) |
| 副会長 | 須田 修(上士幌町図書館長) |
| 加入組織数 | 19館(室) |
| 設立年月日 | 昭和54年4月 |
| 設立目的 | 十勝管内の図書館(室)が相互に連携し、住民へのサービスの向上を図る |
| 活動内容 | 会誌「ふみくら」の発行、役員会・総会の実施(年1回)、研修会の実施(年2回)実務研修、情報交換の場としての司書部会の開催 |

●研究会

| 名称 | 帯広市学校公共図書館研究会 |
|-------|--|
| 会長 | 鈴木 宏和 |
| 副会長 | 嶋 健、千頭 洋、奥山 志穂子、越智 卓、新津 貴裕 |
| 事務局長 | 芹澤 拓哉 |
| 設立年月日 | 昭和34年4月 |
| 設立目的 | 帯広市内の学校図書館と帯広市図書館の相互発展のための研究、資質の向上と相互連携を図る |
| 活動内容 | 読書感想文コンクールの開催、実務研修会の開催 |

文庫名一覧

| 文庫名 | 開設年月日 | 文庫名 | 開設年月日 |
|---------------------------|----------|----------------|----------|
| 宮本富次郎文庫 | 昭和26年4月 | 荒井千秋文庫 | 昭和53年7月 |
| 山崎義平文庫 | 昭和26年5月 | 加藤カネヲ文庫 | 昭和54年3月 |
| 藤本長蔵文庫 | 昭和26年7月 | 熱原文庫 | 昭和54年3月 |
| 帯広ライオンズ文庫 | 昭和27年7月 | 岩田水産文庫 | 昭和54年7月 |
| 帯広ロータリー文庫 | 昭和27年7月 | コニシ文庫 | 昭和55年1月 |
| 松本その文庫 | 昭和31年10月 | 昭九会 | 昭和56年2月 |
| 梶野宗五郎文庫 | 昭和38年9月 | 林光繁文庫 | 昭和56年10月 |
| 帯広北ロータリー文庫 | 昭和42年4月 | 川上文庫 | 昭和57年6月 |
| 向井勝典文庫 | 昭和43年1月 | 帯広二世会文庫 | 昭和57年7月 |
| 福原英雄文庫 | 昭和43年2月 | 大平開運文庫 | 昭和58年5月 |
| 帯広中央ライオンズクラブ文庫 | 昭和43年10月 | 佐直庄太郎文庫 | 昭和58年5月 |
| 北陸銀行児童文庫 | 昭和43年12月 | アンデルセン文庫 | 昭和60年2月 |
| 長原林造文庫 | 昭和44年7月 | ダスキンの愛の店やまざき文庫 | 昭和61年10月 |
| つたい産業(株)文庫 | 昭和44年9月 | 松本清美文庫 | 昭和62年2月 |
| 寺師治人文庫 | 昭和44年11月 | 熊谷克治文庫 | 昭和63年8月 |
| 角田東耕文庫 | 昭和46年2月 | 伊藤清久文庫 | 平成5年7月 |
| 大和田真二郎文庫 | 昭和46年5月 | スカイロード文庫 | 平成7年12月 |
| 笹生真也文庫 | 昭和46年5月 | 昭友会文庫 | 平成8年1月 |
| 関寛文庫 | 昭和49年7月 | 映画学び座委員会文庫 | 平成10年11月 |
| 北電サービス文庫 | 昭和49年9月 | 丸越文庫 | 平成13年6月 |
| 世界文庫 | 昭和49年10月 | 帯広鈴蘭ライオンズクラブ文庫 | 平成14年10月 |
| 帯広平原ライオンズクラブ会員1日1本タバコ節約文庫 | 昭和50年6月 | 松浦護文庫 | 平成15年4月 |
| 十勝信用組合文庫 | 昭和51年8月 | NCおびひろ青年部文庫 | 平成15年9月 |
| 三井鋼材文庫 | 昭和52年5月 | 内山光子文庫 | 平成15年12月 |
| 藤田正子文庫 | 昭和52年8月 | おびしん文庫 | 平成18年2月 |
| 桜井英作文庫 | 昭和52年11月 | 美濃暁美文庫 | 平成23年2月 |
| 川田文庫 | 昭和52年12月 | 浅野祐一文庫 | 平成26年11月 |
| 平位文庫 | 昭和52年12月 | カクイチ文庫 | 平成27年6月 |

写真で見る図書館の歴史

大典記念帯広図書館 (帯広市立帯広小学校提供)



西5南9丁目時代の図書館



西7条南7丁目時代の図書館



解体風景



現在の図書館



実施事業一覧 (令和元年度時点)

| 事業名 | 開始年月 | 内容 |
|-------------------------|----------|--|
| 帯広叢書 | 昭和30年10月 | 昭和30(1955)年10月に「帯広市社会教育叢書」として創刊 |
| 市民文藝 | 昭和36年11月 | 昭和36(1961)年11月3日に創刊した文芸誌 |
| 中城ふみ子賞 | 平成16年8月 | 帯広市出身の歌人中城ふみ子の業績を称え、平成16(2004)年8月3日に創設 |
| 絵本との出会い事業 | 平成15年11月 | 5カ月児健診を受診する親子に絵本とブックリストを配布 |
| 語り手育成講習会 | 平成14年9月 | 読み聞かせを行うボランティアの育成及び技術の向上を図る講座 |
| 帯広畜産大学附属図書館連携事業 | 平成18年4月 | 小学生を対象に年2回調べものなどの講座を実施 |
| ぶっくーる便 | 平成19年1月 | 朝読や調べ学習等、学校への読書活動支援として行っている図書のセット貸出事業 |
| 学校図書館支援事業 | 平成19年2月 | 学校図書館クリニック・リユース会を実施 |
| 図書館・動物園・百年記念館・児童会館による事業 | 平成20年6月 | 平成29年度まで「4館連携事業」として実施。平成30年度以降は「社会教育施設連携事業」に改称 |
| 子育て応援バッグ「プチトマト」 | 平成22年3月 | 小さな子どもを持つ親を対象にした絵本10冊の一括貸出サービス |
| とかちジュニア文芸 | 平成23年2月 | 平成23(2011)年2月20日に創刊された文芸誌 |
| 認知症サポーター養成講座 in 図書館 | 平成23年8月 | 認知症を理解し、応援者となる「認知症サポーター」を養成するための講座 |
| 雑誌スポンサー | 平成24年5月 | スポンサー企業になると、雑誌のカバーや雑誌架に広告を掲載し、利用者にPRできる制度 |
| 子育て応援バッグ「プチコーン」 | 平成24年6月 | 小さな子どもを対象にした絵本5冊の一括貸出サービス |
| 家読(うちどく)にチャレンジ | 平成27年12月 | 家族みんなで同じ本を読んだり、本を通じて家族の絆を深める取り組み |
| サピエ図書館サービス | 平成28年6月 | サピエを利用した録音図書の貸出サービス |
| 子育て応援バッグ「ぶちじゃが」 | 平成29年4月 | 3歳以上を対象にした絵本5冊の一括貸出サービス |

帯広叢書

「帯広叢書」は、教員・アイヌ研究家・郷土史研究家として知られる吉田巖氏のアイヌ語・アイヌ文化の研究や社会・生活・風俗の記録など稀有な文化遺産ともいわれる仕事を広く伝えることを目的に、昭和30（1955）年10月に創刊された。

当初は「帯広市社会教育叢書」と名づけられたが、昭和47（1972）年、事務担当が教育委員会社会教育課から帯広市図書館に移管され、第16巻から「帯広叢書」に改められた。現在は吉田氏の日記、通信記録を中心に未発表の資料を翻刻し、ひろく関係団体・公共施設などに配布するとともに、一般への販売も行っている。



「帯広市社会教育叢書」No.1（昭和30年）

写真で見る吉田巖氏



「日新尋常小学校 校舎全景と校長」



60歳の吉田巖氏

市民文藝

「市民文藝」は、広く市民の文芸活動を推進・独自の文化の創造及び発展を目指し、地域文藝の振興を図る目的で昭和36（1961）年11月3日に創刊された。当時の編集委員は、有田宏・内山孝次郎・小野寺俊一・金沢博一・鈴木八駿郎・田中正二・野原水嶺・舟橋精盛・松並博・三浦英信・八木隅雄（敬称略）が務めた。

翌年の昭和37（1962）年から「市民文芸賞」が設けられ、十勝管内に住む人を対象に、小説、戯曲・シナリオ、文芸評論、随筆、ノンフィクション、童話、詩、短歌、俳句、川柳の分野の作品を募集。入選作品は「市民文藝」誌に掲載し、特に優秀な作品に対しては「市民文芸賞」、それに準ずる作品に対しては「市民文芸準賞」を贈呈している。

また、第20号より10年毎に別冊を発刊。歴代の受賞者に執筆依頼をし、その作品を掲載している。



「市民文藝」創刊号（昭和36年）

歴代編集委員長

| 号数 | 氏名（敬称略） |
|---------|---------|
| 1号～6号 | 記載資料なし |
| 7号～16号 | 西 武 |
| 17号～20号 | 小檜山奮男 |
| 21号～28号 | 鈴木 扶 |
| 29号～37号 | 春山 希義 |
| 38号～41号 | 塚越 博一 |

| 号数 | 氏名（敬称略） |
|---------|---------|
| 42号～45号 | 山陰 進 |
| 46号～47号 | 新宮 正久 |
| 48号～50号 | 武内 哲 |
| 51号～54号 | 五嶋 張佳 |
| 55号～57号 | 加来 義行 |
| 58号～60号 | 五嶋 張佳 |

市民文芸賞 受賞者一覧

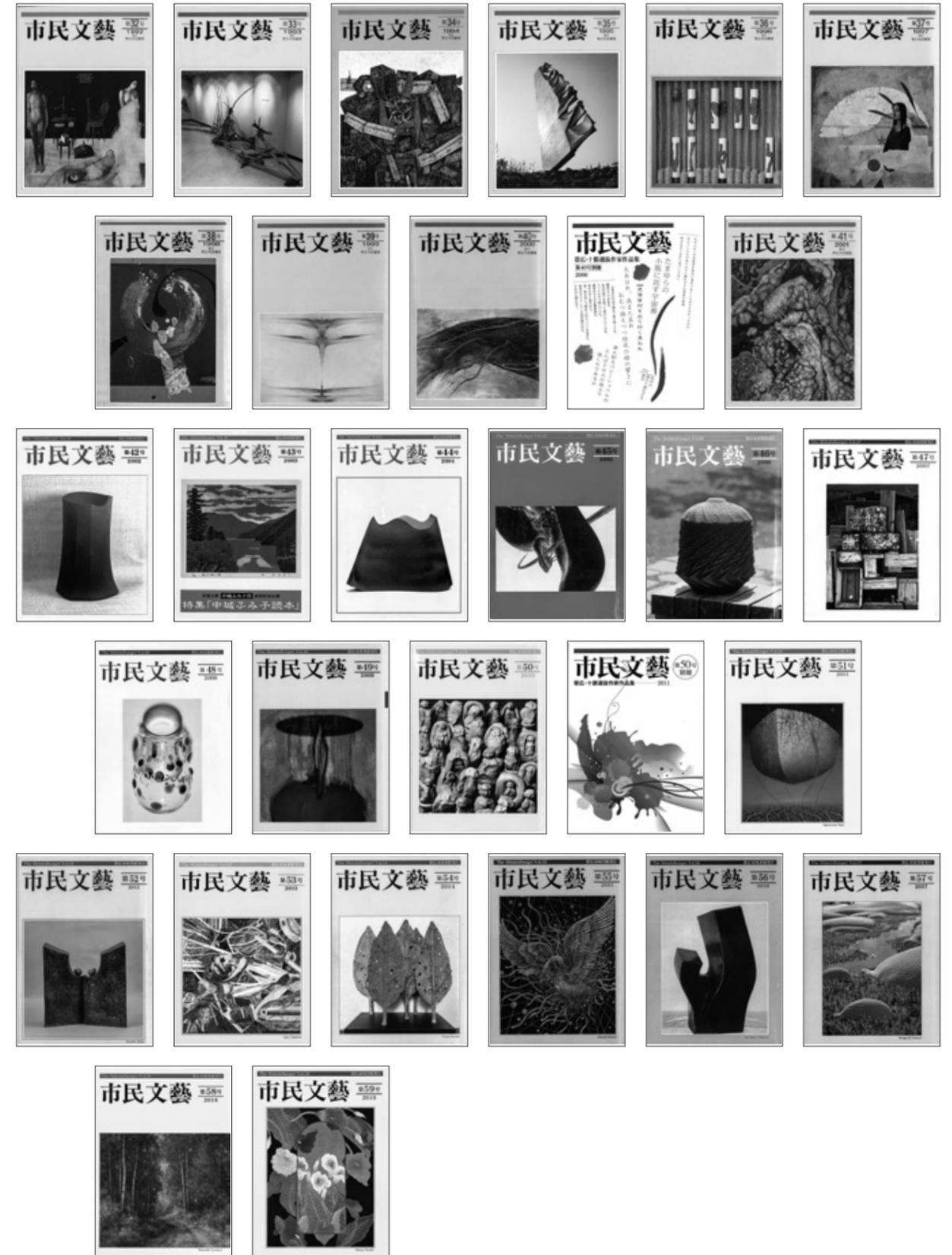
| 年度 | 号 | ジャンル | 受賞作品名 | 受賞者 |
|---------------------|---------------|--------|-------------|-------|
| 昭和 36 | 1 | 表彰制度なし | | |
| 昭和 37 昭和 40 | 2 5 | 該当なし | | |
| 昭和 41 | 6 | 評 論 | 亀井勝一郎論 | 神谷 忠孝 |
| 昭和 42 昭和 45 | 7 10 | 該当なし | | |
| 昭和 46 | 11 | 戯 曲 | 幻覚巨象 | 海保 進一 |
| | | 小 説 | 赤い眼 | 春山 希義 |
| 昭和 47 | 12 | 小 説 | 四海波静かにて | 鈴木 扶 |
| 昭和 48 | 13 | 俳 句 | 心象風景 | 坂口 波路 |
| 昭和 49 | 14 | 該当なし | | |
| 昭和 50 | 15 | 賞なし | | |
| 昭和 51 | 16 | 短 歌 | 颯颯と | 山川 有古 |
| 昭和 52 | 17 | 該当なし | | |
| 昭和 53 | 18 | 小 説 | 草いきれ | 鳥井 綾子 |
| 昭和 54 昭和 58 | 19 23 | 該当なし | | |
| 昭和 59 | 24 | 小 説 | 畳まれていく風景 | 小柴 節子 |
| 昭和 60 | 25 | 該当なし | | |
| 昭和 61 | 26 | 小 説 | チェッカーズ | もりひさし |
| 昭和 62 昭和 63 | 27 28 | 該当なし | | |
| 平成元 | 29 | 小 説 | 星の旅 | 北村 路保 |
| | | | 哀愁のふるさと銀河線 | 高橋 隆一 |
| 平成 2 | 30 | 該当なし | | |
| 平成 3 | 31 | 該当なし | | |
| 平成 4 | 32 | シナリオ | 夏のかおり -十勝野- | 鈴木 享 |
| 平成 5 | 33 | 詩 | 風の大系 | 米山 将治 |
| | | 俳 句 | 雪を待つ | 鈴木八駄郎 |

| 年度 | 号 | ジャンル | 受賞作品名 | 受賞者 |
|---------------------|---------------|------|---------|-------|
| 平成 6 | 34 | 短 歌 | 風の岬 | 芳賀 順子 |
| 平成 7 | 35 | 俳 句 | 悟達に遠く | 有田 宏雪 |
| 平成 8 | 36 | 小 説 | 永遠色の夏 | 五嶋 純有 |
| 平成 9 | 37 | 俳 句 | 光陰 | 大原 灯 |
| | | 文芸評論 | 草木論 | 瀬尾 冬樹 |
| 平成 10 | 38 | 短 歌 | 檜の森 | 栄 晶子 |
| 平成 11 | 39 | 小 説 | 押し花 | 毛利かずえ |
| | | 短 歌 | サルビアの道 | 松原みち子 |
| 平成 12 | 40 | 俳 句 | 金剛力 | 山陰 進 |
| 平成 13 | 41 | 該当なし | | |
| 平成 14 | 42 | 小 説 | 命の声に捧げる | 東館千鶴子 |
| | | 川 柳 | 残照 | 柴田 晶代 |
| 平成 15 平成 18 | 43 46 | 該当なし | | |
| 平成 19 | 47 | 俳 句 | 白い象 | 粥川 青猿 |
| 平成 20 | 48 | 該当なし | | |
| 平成 21 | 49 | 随 筆 | リュウゼツラン | 杉山 麿三 |
| 平成 22 | 50 | 小 説 | 天高く | 岩城 由榮 |
| | | 俳 句 | 音調津村 | 高松 暮秋 |
| 平成 23 | 51 | 該当なし | | |
| 平成 24 | 52 | 随 筆 | 赤い鈴の鍵 | 岩見 民子 |
| 平成 25 | 53 | 賞なし | | |
| 平成 26 | 54 | 賞なし | | |
| 平成 27 | 55 | 川 柳 | 夏の陣 | 柴田あずき |
| 平成 28 | 56 | 随 筆 | 包む(くるむ) | 坂井 弘子 |
| 平成 29 令和 2 | 57 60 | 該当なし | | |

※該当なし・・・市民文芸賞の該当なし

※賞なし・・・市民文芸賞含め、その他の賞の該当なし

市民文藝～表紙から辿る変遷～



中城ふみ子賞

帯広市出身の歌人中城ふみ子の功績を称えるとともに後世に伝えるため、また、地域からの新たな文化の創造・発信を目的に、没後50年となる平成16(2004)年8月3日に創設。

現代の短歌の世界に新たな息吹を吹き込むような短歌や、ふみ子同様自らの「生きる姿勢」を短歌に託してもらうことによって、再び北からの新たな文化の発信を目的としている。

中城ふみ子

大正11年11月25日に帯広で生まれ、昭和29年8月3日に乳癌で31歳の生涯を閉じる。

昭和29年、「短歌研究」に応募した50首詠が特選となったことにより、その名を全国に知られるようになる。



第9回 中城ふみ子賞応募要項

中城ふみ子賞 受賞者一覧

| | 受賞作品名 | 受賞者名 |
|------------|---------------|----------------|
| 第1回(平成16年) | 真冬の漏斗 | 遠藤 由季 (千葉県) |
| 第2回(平成18年) | さよならの季節に | 小玉 春歌 (山形県) |
| 第3回(平成20年) | 乳房雲 | 田中 教子 (大阪府) |
| 第4回(平成22年) | 月の河 | 葉月 詠 (富山県) |
| 第5回(平成24年) | 「同じ白さで雪は降りくる」 | 中畑 智江 (愛知県) |
| 第6回(平成26年) | 空壇ながし | 蒼井 杏 (大阪府) |
| 第7回(平成28年) | ティーバッグの雨 | 田村ふみ乃 (大阪府) |
| 第8回(平成30年) | 舞ひ踊るをんなたちの裸体 | イシカワ ユウカ (千葉県) |

一般向け事業

語り手育成講習会

読書ボランティアとして図書館・学校・地域で活動することを希望する方を対象とし、読書ボランティアの育成を図るための講座。

読み聞かせの基礎やおはなし会の進行・運営の仕方などの入門編とステップアップ編(紙芝居・語り・年齢別・高齢者施設)に分けて実施。



雑誌スポンサー制度

図書館の雑誌コーナーを充実させるため、企業・商店・団体・個人事業主(個人は対象外)を対象に雑誌の提供スポンサーになっていただき、その雑誌のカバーと雑誌架に広告を掲載し、図書館利用者へのPRが出来る制度。



サピエ図書館サービス

帯広市内在住で、視覚に障害のある方や障害等のため本のページをめくれない方などに対して、サピエ図書館からダウンロードした録音図書(CD)を貸出する事業。

利用には、「帯広市図書館障害者サービス」への登録が必要。



認知症サポーター養成講座 in 図書館

認知症を理解し、認知症の人とその家族を見守り応援者となる「認知症サポーター」を養成するための講座。

平成23年度から令和元年度の間に7回実施。平成27年度には小学3年生以上を対象とした「夏休みキッズサポーター養成講座」を実施した。



児童向け事業

おはなし会

●土曜日のおはなし会

・毎週土曜日 ・時間：11時～11時30分 ・対象：幼児～児童

| | おはなし会名 | 実施団体名 |
|-------|-----------|----------------|
| 第1土曜日 | 土曜童話会 | 十勝童話会 |
| 第2土曜日 | ワクワクおはなし会 | ワクワク会 |
| 第3土曜日 | おひさまおはなし会 | 帯広図書館友の会 おひさま |
| 第4土曜日 | 土曜おはなし会 | この本だいすきの会 帯広支部 |
| 第5土曜日 | キラキラおはなし会 | 五つ☆ (ぼし) |

●水曜日のおはなし会

・第2、第4水曜日 ・時間：11時～11時20分
・対象：おなかの中の赤ちゃん～3歳くらいまで

| | おはなし会名 | 実施団体名 |
|-------|-----------|---------------|
| 第2水曜日 | おひさまおはなし会 | 帯広図書館友の会 おひさま |
| 第4水曜日 | にこにこおはなし会 | にこにこ会 |



学校支援事業

◆学校図書館クリニック

平成18年度より、学校図書館の読書環境整備やボランティア同士の交流を目的にスタート。学校公共図書館研究会より依頼を受け帯広市図書館職員が学校へ出向き、本の除架作業や図書室内の配置換えを行うほか、各学校の参加者で情報の共有・交換を行う。

◆リユース会

帯広市図書館で役目を終えた本を市内の小中学校や児童保育センターに譲渡し、本の有効活用を図る。



学校図書館クリニックの様子



リユース会の様子

ぶっくーる便

平成19年1月より、子どもの読書活動の推進や学習活動・学校図書館の支援を目的にスタート。

対象は市内の小中学校。事業開始時のセット内容は、各校の要望を反映し作製した。

1セット35冊、貸出期間は2週間。配送業者によって配達・回収される。

「ぶっくーる」の名は「ブック」と「スクール」を掛け合わせたもの。



朝の読書セット (低学年) 1

帯広市児童生徒読書感想文コンクール

昭和35年9月より、子どもたちが本を読んで物事を考える機会をつくることを目的に毎年開催。

帯広市学校公共図書館研究会が編集し、帯広市図書館が発行している。

令和2年2月には帯広市児童生徒読書感想文集第59号が発行されている。



第59回 帯広市児童生徒
読書感想文集

子育て応援バッグ（絵本セット）

プチトマト・プチコーン・ぶちじゃがの3種類の絵本セット。年齢やテーマ毎によって分けられている。すでにバッグの中に本が入っているので選ぶ必要が無く、仕事や家事で忙しいお父さん・お母さんにオススメのセット。



「プチトマト」バッグ



「プチコーン」バッグ



「ぶちじゃが」バッグ

児童保育センターへの貸出

平成26（2014）年10月より児童保育センターの児童と本との出会いの場として始めたセットの貸出事業。開始年度は8カ所の児童保育センターの利用だったが、令和2年度には17カ所にまで利用が増えた。



学童セット

帯広畜産大学附属図書館連携事業

帯広市と帯広畜産大学が取り交わした「帯広畜産大学と帯広市との包括的連携協力に関する協定」に基づき平成18年度より、小学生を対象に年2回（夏休み・冬休み）実施。

平成23（2011）年に「調べものマスター」事業が、『子どもと本をつなぐ図書館179』（北海道図書館振興協議会調査研究チーム発行）の中の、「特色ある子ども向け事業」のひとつとして掲載された。



夏休みの事業風景



冬休みの事業風景

とちちジュニア文芸

「とちちジュニア文芸」は、子どもたちの創作意欲をさらに高め、読解力・表現力の向上を図ろうと、平成23（2011）年2月20日に創刊された文芸誌。

第1号から第5号までは「ジュニア文芸」とし、事業の趣旨に賛同した星槎大学帯広サテライト（当時）と共同で発行。第6号からは十勝・帯広の青少年の文芸活動を奨励するため、「とちちジュニア文芸」と名称を変更して現在に至る。

募集ジャンルは、小説・童話・戯曲・詩・短歌・俳句で、併せてオリジナルの表紙絵も募集。採用された作品は文芸誌の表紙絵として掲載される。



「ジュニア文芸」第1号（平成22年度）

家読（うちどく）にチャレンジ！

家読（うちどく）とは、家族みんなで同じ本を読んだり、読んだ本について語り合うこと、また家族そろって図書館や本屋さんで本を選ぶなど、本を通じて家族のきずなを深める取り組み。平成 27（2015）年からスタートした、冬休み限定で開催している事業。

対象は十勝管内の小中学生で、本を読んだ感想を家読ノートに書き、図書館へ提出。後日、公開抽選会が行われ、当選者には景品が当たる。



令和元年度ポスター

ヤングアダルト（YA）向け事業

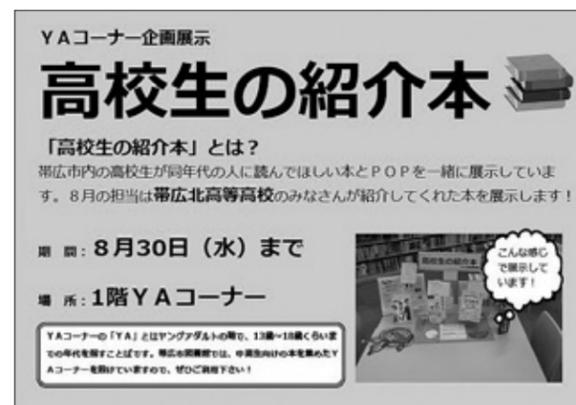
高校生の紹介本

帯広市内の高校の毎月リレーにより、高校生が選んだ同年代に読んでもらいたい本と紹介文を図書館の YA コーナー（中高生向け図書コーナー）で展示。

高校生から紹介される本を展示することで、出会ったことのない本の発見や、新たな読書の領域に興味関心を持ってもらうことを目的に実施。



展示コーナーの様子



帯広北高等学校担当時のポスター

図書館の主な発行物

帯広市図書館パスファインダー しらべ隊！！

「パスファインダー」とは、あるテーマを調べるために役立つ資料をわかりやすく紹介したガイド。

帯広市図書館では平成 18（2006）年に大人向け・子ども向けの作成を始め、令和 2 年 11 月時点で大人向け 19 種類・子ども向け 30 種類にまで増えた。

各種パスファインダーは帯広市図書館ホームページからも見ることが出来る。



子ども向けパスファインダー
「地球温暖化ってどんなこと？」(2019.10 改訂版)



大人向けパスファインダー
「海外旅行」(2020.3 改訂版)

よむよむ☆タイムズ

テーマ別に図書館のオススメ資料を紹介した広報紙。平成 18（2006）年 9 月に創刊し毎月発行している。毎月テーマに沿った本の紹介や、図書館では司書がどのような手順で調べものをしているのかを公開する「調べてみよう！レファレンス」、図書館の行事予定等を紹介している。



「よむよむ☆タイムズ」創刊号（平成 18 年）



TEEN'S

「TEEN'S (ティーンズ)」は、ヤングアダルト (YA) 世代 (10代) へのオススメ本を紹介した広報紙。平成 19 (2007) 年 10 月 1 日に創刊。令和 2 (2020) 年夏号よりリニューアル。「中高生が中高生にオススメする本」を募集し、紙面に掲載。



「TEEN'S」創刊号 (平成 19 年)

食ナビ☆ベビー・食ナビ☆ジュニア

0 歳児やその保護者におすすめする食の本を紹介した「食ナビ☆ベビー」と、小学生におすすめする食の本を紹介した「食ナビ☆ジュニア」を作成し年 1 回発行。各々を 5 カ月健診時や市内小学校に配布している。



「食ナビ☆ベビー」(令和元年度版)

「食ナビ☆ジュニア」(令和元年度版)

各種おすすめ本リスト

《子ども向け》

◆子どものためのおすすめ絵本 ~十勝ゆかりの絵本編~



◆おすすめブックリスト ~本選びに迷ったら~

- 赤ちゃん編
- 幼児編
- 小学校低学年編
- 小学校中学年編
- 小学校高学年編



「おすすめブックリスト」5 種

「おすすめ絵本リスト」3 種

◆オススメ絵本リスト

- 0 - 1 さい児向け
- 2 - 3 さい児向け
- 4 - 5 さい児向け

◆この本にチャレンジ!



◆トイレトレーニング

GO! GO!!! 図書館!!!

小学 3 年生から中学生までを対象に作成した、図書館を上手に活用してもらうための資料。

内容は図書の分類や図書館でのルールなど、学校図書館・公共図書館のどちらでも使用できるもの。

毎年、新小学 3 年生に配布。



新聞記事で見る図書館の歴史

週間録音

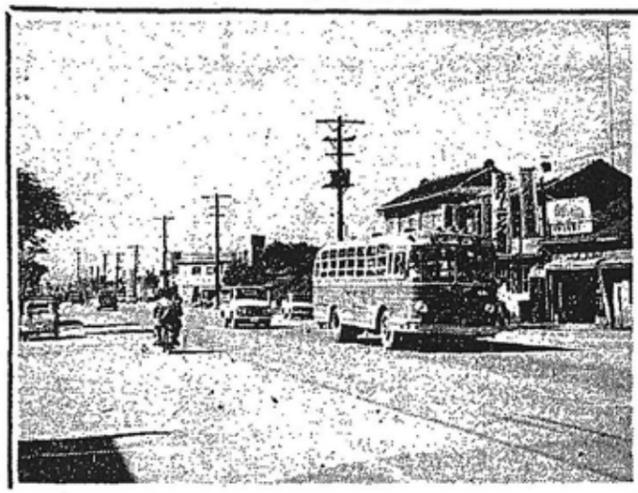
本館に、ハルシム入館の制限が設けられ、入館者が減少した。また、本館の蔵書も、戦時下の影響で減少した。しかし、市民の読書熱は衰えず、本館は、戦時下の困難な状況下でも、読者のために尽力した。

本の足りない図書館

だが閲覧者は全道一位

本館の蔵書は、戦時下の影響で減少した。しかし、市民の読書熱は衰えず、本館は、戦時下の困難な状況下でも、読者のために尽力した。

北門新報 昭和25年1月17日2面



十勝日報 昭和39年6月27日3面

来月から「動く図書館」

帯広市図書館のこまごまとした事業計画でも多くの本を「読んで」の二つである。動く図書館がい、全市民的に読書機運を作り、読書の普及を図る。人口の増加、読書の質的向上を図り、全市民に図書館サービスを行なうことを目的として、実施される。自動車支庫は、市内の各所に駐在所スターを添着、毎月一回、午前十時から午後三時まで巡回するもので二人でも多くの人が、

新図書館の青写真できる

鉄筋リコク三階建て

帯広の文化センターに

改築機に専任館長

今年度中に移転、落成することになった帯広市図書館。新館は、鉄筋コンクリート三階建てで、面積は約1,000平方メートル。改築機に専任館長として、新館の建設に専念する。

十勝日報 昭和42年1月19日1面

郷土の歩みを保存

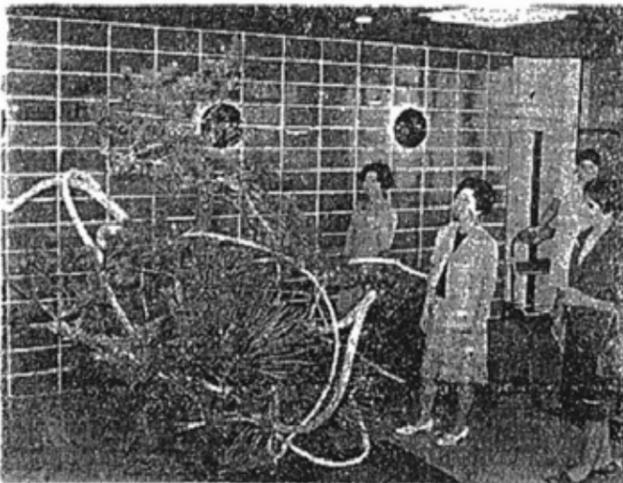
帯広市 図書館 資料センター設置へ

郷土の歩みを保存し、市民の文化生活を豊かにするために、帯広市図書館に資料センターを設置する計画が、市議会に提案された。資料センターには、郷土の歴史、文化、産業に関する資料を収集・保存し、市民に提供することになる。

十勝日報 昭和40年11月10日3面



喜びの開館テープを切る吉村市長(図書館で)



図書館の開館を祝って開かれている総合美術展

「知識の殿堂」オープン 吉村市長がテープ切る

帯広市図書館

完成した帯広市図書館の開館式 拍手のなかを関係者がはじめて新
が二十日午前十時から四七条南七 館にはいった。
丁目の開館地内新館で開かれ
た。 会議室での開館式では、吉村市
長、黒田教育委員長代理などがあ
いさつ、道教委委員長代理の稲本
十勝教育局長、道下道議、北海道
その後蔵書の整理などを済ませ
はられたテープにハサミを入れ、 公共図書館協会代理の東谷道
開館となったもので、鉄筋三層建

て延べ千五百七十八平方メートルには一
階児童室、新聞と雑誌閲覧コーナー
、ホール、二階一般閲覧室、中
高学年閲覧室、書庫、三階揚巻覧
室、特許公報室、特別研究室、洋
書室、書庫と配置されている。規
模、内容では本邦の県立図書館並
みと関係者は自慢し、利用も書架
に自由に入れる開架式とし、市の
本物として大いに活用してほしい
といっている。

図書館の開館 祝い、美術展

帯広市図書館の開館を祝って十
勝総合美術協会(吉村博会長の
第六回展が同図書館と市民会館を
会場に開かれている。華道、盤景
書道、絵画の各ジャンルから合せ
て約百点の出品があり、新図書館
開館にふさわしい展覧会になって
いる。とくに今回の展覧会には大
作が多い。華道では三、四万もあ
る作品が並べられ、訪れる人々の
目を惹きつけている。会期は二
十二日まで。

十勝日報 昭和43年8月21日1面

ナウマン 引張りたこ

市民に、知識配る



帯広市図書館 利用ふえる一方

帯広市図書館は、市民に知識を配るため、ナウマン引張りたこを利用している。この引張りたこは、市民が自由に利用でき、知識を配るのに役立つ。また、市民の利用が激しく、知識の殿堂としての役割を果たしている。図書館は、市民の知識欲を満たすために、様々なサービスを提供している。ナウマン引張りたこは、その一つとして、市民の知識を深めるのに役立つ。また、市民の利用が激しく、知識の殿堂としての役割を果たしている。図書館は、市民の知識欲を満たすために、様々なサービスを提供している。ナウマン引張りたこは、その一つとして、市民の知識を深めるのに役立つ。

十勝日報 昭和46年12月4日3面



購入された電子リコピー(帯広図書館で)

市民に複写サービス 市面 待望のリコピー購入

帯広市図書館は、市民に複写サービスを提供するために、電子リコピーを購入した。このサービスは、市民が自由に利用でき、知識を配るのに役立つ。また、市民の利用が激しく、知識の殿堂としての役割を果たしている。図書館は、市民の知識欲を満たすために、様々なサービスを提供している。電子リコピーは、その一つとして、市民の知識を深めるのに役立つ。

十勝日報 昭和47年6月2日1面

著作権の都合上、掲載しておりません。

著作権の都合上、掲載しておりません。

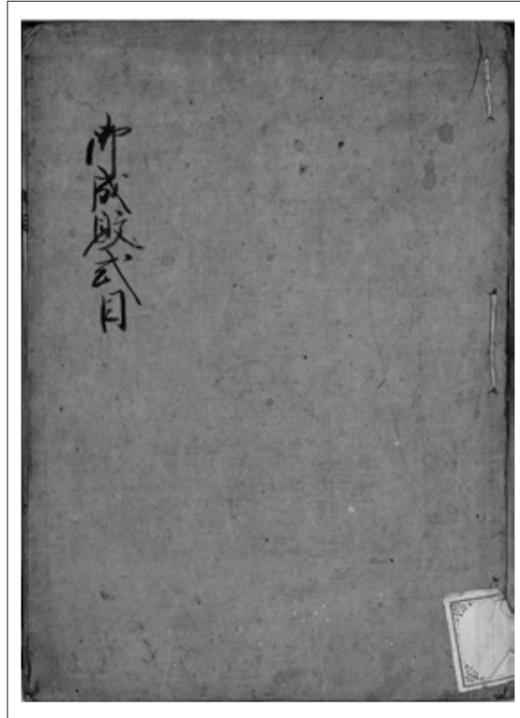
貴重資料公開

～通常は公開していない資料も含めた“お宝資料”を特別にご紹介します～

[和書]

『御成敗式目』

京都書林出版
宝暦4（1754）年発行



『保元平治物語』

室町一扇／著
文政2（1819）年発行

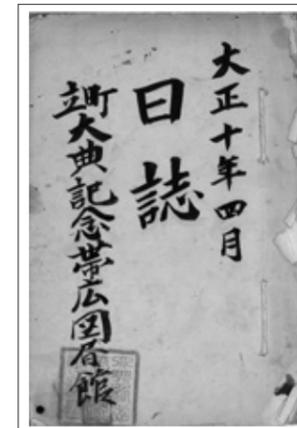


[寄贈図書目録] ※非公開資料

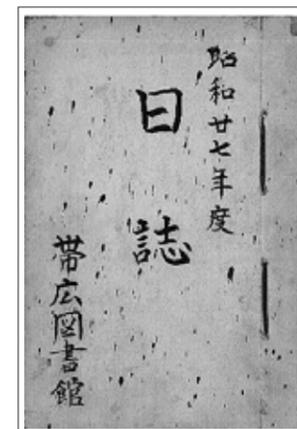
「町立大典記念帯広図書館」が発足するより前、「私立十勝教育会図書館」時代の大正2年8月「図書寄附受納台帳」の他、「図書目録」も保存。



[図書館日誌] ※非公開資料

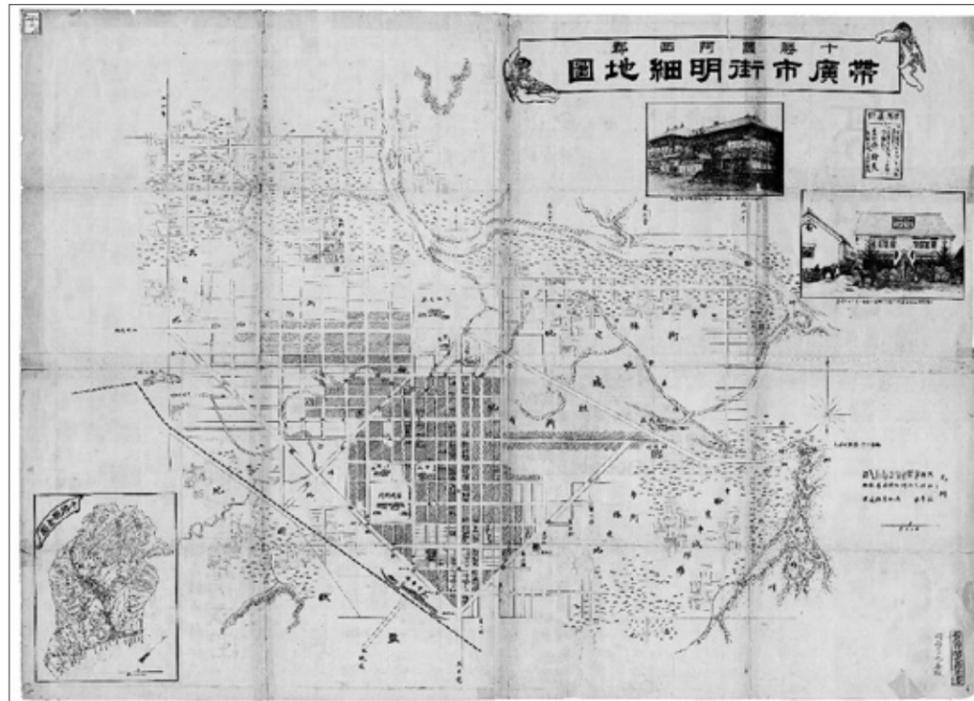


現図書館の前身・町立大典記念帯広図書館時代からの日誌を保存



昭和27年3月4日の日誌に「十勝沖地震」についての記述あり

[地図] ※帯広市図書館 HP でも公開



明治 27 年発行「十勝国河西郡帯広市街明細地図」



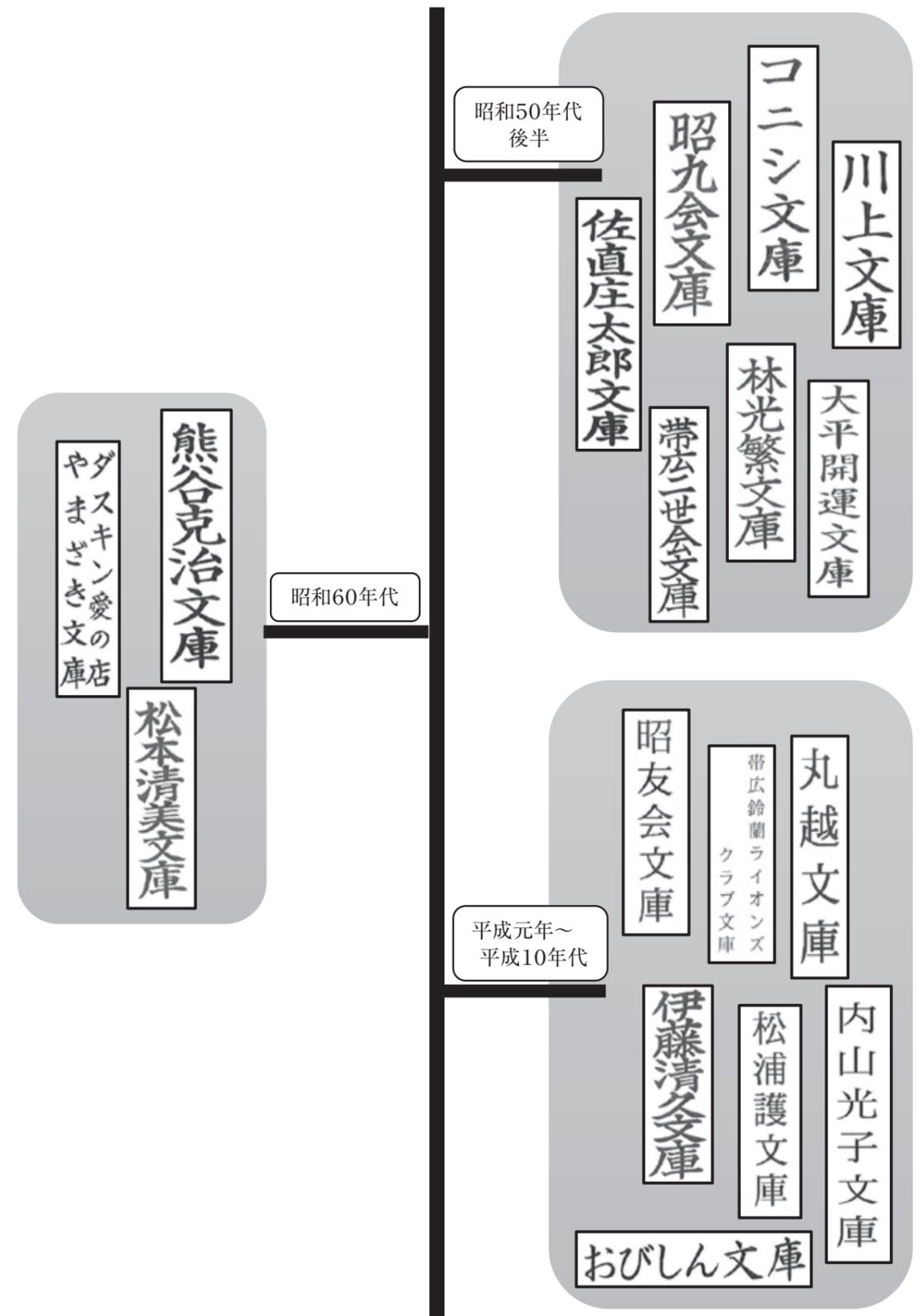
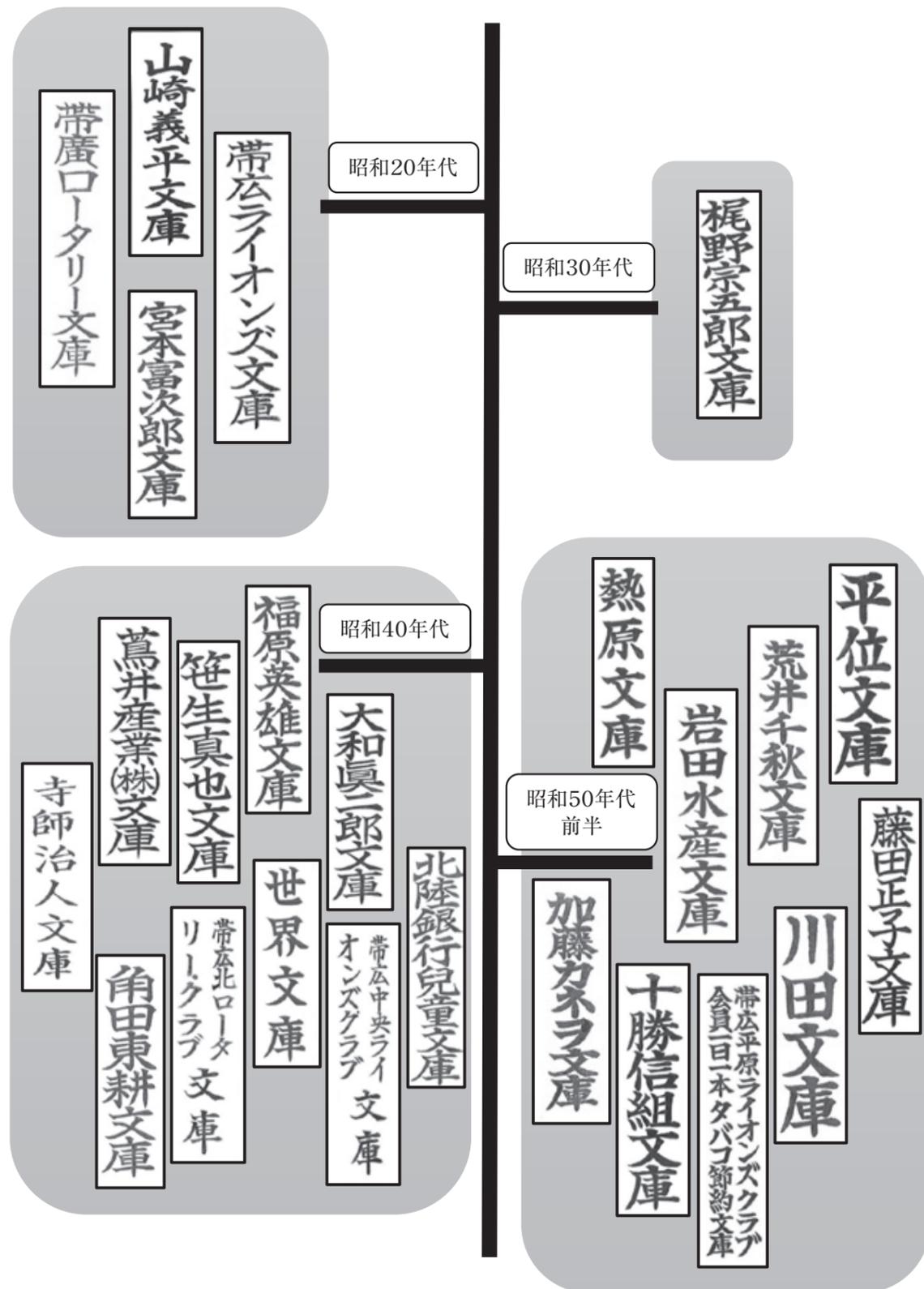
大正 10 年発行「帯広市街図 (裏面)」

[地図] [地図]



昭和 4 年発行「帯広市街全図」(一部抜粋)

文庫印で辿る歩み



施設案内

当館は、街の中心部に位置し、JR 帯広駅から徒歩2分と、交通の便に恵まれています。

豊富な蔵書と検索機能、専門（司書）職員による資料相談などのサービス、テーマごとに構成されたフロアーにより必要な情報を提供します。

また、館内の様々な箇所にユニバーサルデザインを取り入れ、太陽光や地下水など豊富な自然エネルギーを利用している“人と環境”に配慮した施設です。

| | | | | | |
|------|-------------------------------------|-----------|-----------|------|-----------|
| 所在地 | 帯広市西2条南14丁目3番地1 | | | | |
| 開館日 | 平成18年3月3日 | | | | |
| 構造 | 鉄骨鉄筋コンクリート造、一部鉄筋コンクリート造 地下1階 地上3階建て | | | | |
| 面積 | 敷地面積 | 7,260.48㎡ | | | |
| | 延床面積 | 6,544.53㎡ | | | |
| | 内訳 | 地下1階 | 45.03㎡ | | |
| | | 地上1階 | 2,589.02㎡ | 地上2階 | 2,252.01㎡ |
| | | 地上3階 | 1,197.47㎡ | PH | 31.00㎡ |
| 駐車場 | 94台（身体障害者用3台含む・3時間の利用制限あり） | | | | |
| 駐輪場 | 96台 | | | | |
| 所蔵能力 | 約50万冊 | | | | |
| 事業費 | 約35億円 | | | | |

●周辺図

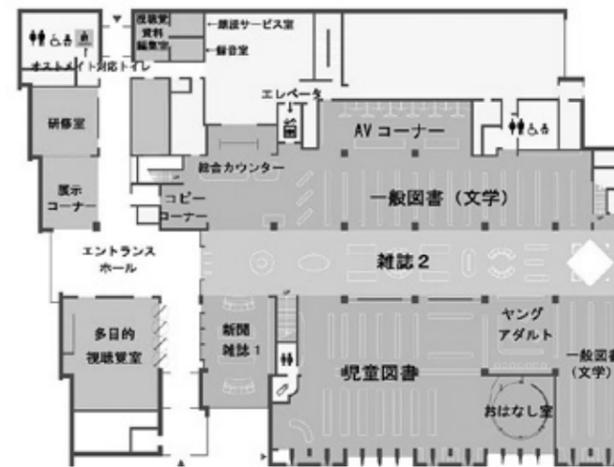


●館内の様子



館内案内図

1階「にぎわいのフロアー」



■1階主要機能

- ・資料の貸出・返却（自動貸出機設置）
- 一般図書コーナー（文学）
- 新聞・雑誌コーナー
- 児童図書コーナー
- ヤングアダルトコーナー
- AV（視聴覚）コーナー
- 授乳室
- 展示コーナー
- オストメイト対応トイレ
- その他諸室

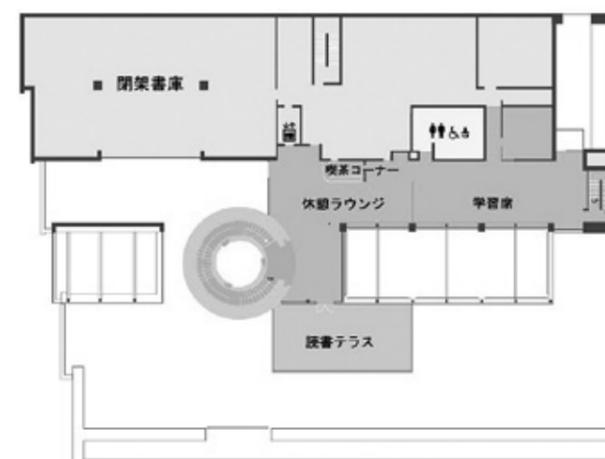
2階「探究のフロアー」



■2階主要機能

- ・レファレンスサービス（資料・情報相談）
- 一般図書コーナー（文学以外）
- 参考図書コーナー
- 地域・行政資料コーナー
- 中城ふみ子資料室
- 地域資料研究室
- ITコーナー
- 展示コーナー（地域資料）
- 読書テラス
- 閲覧室

3階「憩いのフロアー」



■3階主要機能

- ・軽食、休憩、学習場所
- 喫茶コーナー
- 休憩ラウンジ
- 学習席
- ボランティア活動室
- 事務室
- 会議室
- 読書テラス

利用案内

| | |
|---------|---|
| 開館時間 | 午前10時～午後8時(土・日曜日・祝日は午前10時～午後6時まで) |
| 休館日 | ・月曜日(祝日にあたるときは開館し、翌日を休館とする) ・年末年始:12月29日～翌年1月3日 ・月末整理日:毎月末日(土・日曜日または上記休館日の場合は繰り上げる) ・特別整理期間(蔵書点検) |
| 利用者登録 | ・十勝管内に居住している方 ・十勝管外に居住する大学生等で、十勝管内に帰省先がある方 ・その他、教育委員会が特に認めた方 |
| 貸出冊数・期間 | ・図書等 1人10冊2週間以内 ・視聴覚資料等 1人3点以内で2週間以内 ・視聴覚機材 1人3点以内で2週間 |
| 手続き | 利用登録申込書に必要事項を記入し、利用者カードを作成(身分を証明するものが必要) |
| 各種サービス | <p>◆レファレンスサービス 2階「資料相談カウンター」にて本に関する相談や調べもののお手伝いをいたします</p> <p>◆複写サービス 図書館の資料に限り、著作権法の範囲内でコピー(有料)をとることができます</p> <p>◆障害のある方へのサービス・館内設備等</p> <p>○各種サービス(※のサービスは、事前に障害者サービスの利用登録が必要です)</p> <p>(1)朗読サービス:毎週土曜日(午後2時～4時)、帯広図書館友の会ボランティアが代読します</p> <p>(2)*宅配サービス:宅配ボランティアの協力により、ご自宅に本をお届けします ・利用資格…市内在住で障害4級以上の方で、同居者等がないため図書館への来館が困難な方</p> <p>(3)*郵送サービス:録音図書を郵送で貸出します ・利用資格…市内在住で視覚障害2級以上の方</p> <p>(4)*サピエ図書館サービス:サピエを利用した録音図書の貸出をします</p> <p>(5)*デージー再生機等館内利用サービス:デージー再生機及びデージー図書の貸出をします ・利用資格…市内在住で視覚障害等により図書館資料の閲覧が困難な方</p> <p>○館内設備・資料等 身体障害者駐車場(3台)、車椅子対応エレベーター、車椅子対応トイレ、拡大読書器、赤外線補聴システム(多目的視聴覚室)、公衆ファクシミリ CDブック、カセットブック、大活字本、副音声付DVD</p> |

利用案内 移動図書館バス「ナウマン号」

● 移動図書館バス「ナウマン号」の利用方法

| | |
|---------|--|
| 利用者登録 | ・十勝管内に居住している方 ・十勝管外に居住する大学生等で、十勝管内に帰省先がある方 ・その他、教育委員会が特に認めた方 |
| 貸出冊数・期間 | ・図書 1人10冊以内で、次の巡回日(約1カ月後)まで(延長不可) ※なお、本館とは別に10冊借りることが出来ます |
| 手続き | ・利用登録申込書に必要事項を記入し、利用者カードを作成(身分を証明するものが必要) |

● コミセン等図書室の利用方法

| | |
|---------|---------------------------|
| 貸出冊数・期間 | ・図書 1人5冊以内で、2週間借りられる(延長可) |
| 手続き | ・コミセン等事務室の窓口で手続き |

● 各コミュニティセンター等

| 施設名 | 所在地 | 施設名 | 所在地 |
|----------------|-----------|-----------------|----------|
| 鉄南コミュニティセンター | 西2条南24丁目 | 森の里コミュニティセンター | 西22条南4丁目 |
| 東コミュニティセンター | 東7条南9丁目 | 大正農業者トレーニングセンター | 大正本町西1条 |
| 緑西コミュニティセンター | 西17条南4丁目 | 川西農業者研修センター | 川西町西2線 |
| 啓北コミュニティセンター | 西13条北2丁目 | グリーンプラザ | 公園東町3丁目 |
| 西帯広コミュニティセンター | 西23条南2丁目 | 保健福祉センター | 東8条南13丁目 |
| 南コミュニティセンター | 西10条南34丁目 | 児童会館(もっくん広場) | 緑ヶ丘2 |
| 帯広の森コミュニティセンター | 空港南町南11線 | | |

● 地域図書コーナー

| 施設名 | 所在地 | 施設名 | 所在地 |
|-------------|----------|------------|---------|
| 帯広畜産大学附属図書館 | 稲田町西2線 | みなみ野福祉センター | 南の森東2丁目 |
| 若葉福祉センター | 西17条南5丁目 | 清流の里福祉センター | 清流西3丁目 |
| 栄福祉センター | 西17条北1丁目 | | |

● 文庫マスター

| 文庫名 | 住所 |
|--------|-----------------|
| 大空文庫の会 | 大空町12丁目(大空会館別館) |

利用案内 移動図書館バス「ナウマン号」

●巡回日時・経路

※令和2年4月時点

| 日時 | 午前 | | | 午後 | | | | |
|----|-------------|--|--|--|---------------------------------------|--------------------------------------|---|-------------------------------------|
| | 10:15～10:45 | 11:05～11:35 | 13:20～13:50 | 14:15～14:35 | 14:50～15:20 | 15:35～16:05 | | |
| 第1 | 火 | | 冒険公園東側 西23条南4丁目32 | ありんこ児童公園南側 西24条南3丁目25 | ちびっこ広場西側 西25条南2丁目21 | 雇用促進事業団住宅 西側 西24条南1丁目40 | | |
| | 水 | | 栄保育園北側 西17条北2丁目24 | 開発官舎内 西16条北2丁目16 | たけしげ歯科様西側 西17条北1丁目23-7 | 写真工房様南側 西17条北2丁目16 | | |
| | 木 | ※ベルラヴィくる (11:00～11:30) 東4条南10丁目15 | 前田商会様北側 南の森西7丁目5-7 | 春光児童公園東側 西17条南37丁目2 | かじはら不動産事務 所様北側 西10条南26丁目20 | 公園東第2児童公園 東側 公園東町3丁目4 | | |
| | 金 | ※そうび苑 (9:15～9:45) 西16条北1丁目27-127 | ※パナソニックST (株)帯広本社 (12:00～12:45) 西25条北1丁目2-1 | 南商業高校北側 西21条南4丁目36 | 新緑団地南側 西21条南4丁目34 | わんぱく公園北側 西22条南3丁目15 | 西10号会館北側 西21条南2丁目32-19 | |
| 第2 | 火 | | 駒追橋南側 西15条南14丁目2 | 刑務所官舎内 別府町南13線34 | 市営住宅丘1南側 大空町9丁目6-2 | セイコーマート大空店 様西側 大空町1丁目7 | ほのほの公園西側 南の森西2丁目10 | |
| | 水 | ※広野小学校 (10:20～10:50) 広野町西1線149 | ※清川小学校 (11:15～11:45) 清川町西3線127 | ※清川中学校 (13:00～13:20) 清川町西2線126 | ※八千代中学校 (15:30～15:50) 広野町西1線149 | | | |
| | 金 | | | 柳トスカチーナ様東側 西18条南5丁目44-19 | 常盤第2児童公園北側 西19条南5丁目27 | ファミリータウン道様 東側 西20条南5丁目35-1 | 自由が丘福祉センター 西側 自由が丘3丁目6 | |
| 第3 | 火 | ※シルバーヒルズ くるくる (9:50～10:05) 西3条南6丁目2-1 | ※ハイツしらかば (10:15～10:35) 東5条南14丁目1-1 | ※とてつまの丘 くるくる (10:50～11:20) 西7条南26丁目13 | 南町児童公園東側 西15条南31丁目 | 共栄児童公園西側 南町南8線25 | 修道館様北側 南町南7線28-6 | 自衛隊西官舎特7南側 西17条南6丁目7 |
| | 水 | ※愛国小学校 (9:25～9:55) 愛国町基線23 | ※川西小学校 (10:20～10:50) 川西町西3線66 | JAかわにし様 駐車場 (11:00～11:30) 川西町西2線61 | ※第7中学校 (13:00～13:20) 大正町444-2 | ※大正小学校 (13:20～13:40) 大正町550-3 | 大正農業者トレーニン グセンター前 (14:00～14:30) 大正本町西1 | ※川西中学校 (15:30～15:50) 川西町西3線60 |
| | 木 | | | 飯沼建設様東側 西4条北2丁目20-1 | ミッキークリーニング 様西側 東1条北1丁目8-4 | 三上商店様南側 東10条南2丁目1-3 | 訪問介護ホーム「え がお」様北側 東12条南4丁目1 | |
| | 金 | | | ときわの森保育所南側 西16条南5丁目22-5 | 慶友会歯科様東側 柏林台南町3丁目1 | 柏林台福祉センター 北側 柏林台南町6丁目1-3 | はんがい耳鼻咽喉科 クリニック様南側 西16条南1丁目8 | |
| 第4 | 火 | ※あじさい保育園 (9:30～10:30) 東9条南19丁目1-1 | | 君の湯様駐車場東側 西5条南32丁目19 | ひじりニュータウン北側 西9条南40丁目2 | YUTAKA・HOUSE 様東側 西16条南41丁目3-15 | モモンガ公園南側 清流西2丁目3 | |
| | 水 | 市民活動プラザ六中 東11条南9丁目1 | 帯広調理師専門学校 様西側 東10条南13丁目2 | 柏南第1児童公園北側 西18条南3丁目4 | 啓西公園東側 西19条南3丁目43 | みずほ児童公園東側 西20条南3丁目25 | 大江病院様南側 西20条南2丁目5 | |
| | 金 | | ポールスターパレス様 北側 西11条北6丁目8 | 山口ストア様北側 東7条南19丁目9-1 | 堀内様西側 東11条南16丁目1-15 | 光南第2児童公園西側 東5条南24丁目5 | 多機能ホーム「清流 の里」様東側 清流東4丁目4-4 | |

※印は、それぞれの施設利用者・職員が対象です

・「パナソニックST(株)」は「パナソニックスイッチング テクノロジーズ株式会社」の略です

＜参考文献＞

- ・『帯広市史 平成15年編』帯広市／発行
- ・『帯広市図書館要覧』帯広市図書館／編集・発行
- ・『大典記念帯広市図書館沿革史』大典記念帯広図書館／編集・発行
- ・『十勝日報』十勝日報新聞社
- ・『十勝毎日新聞』十勝毎日新聞社
- ・『十勝民報』十勝民報社
- ・『北門新報』北門新報社
- ・『北海道新聞』北海道新聞社
- ・『マスター連協 20年のあゆみ』市民文庫マスター連絡協議会／編

帯広市図書館 開館100周年記念誌

2020（令和2）年12月2日発行 （非売品）

発行 帯広市教育委員会
帯広市図書館
帯広市西2条南14丁目3番地1

印刷 大同出版紙業 株式会社

電話 0155-22-4700

URL <https://www.lib-obihiro.jp>



100th

OBIIHIRO

CITY

LIBRARY